

環境経営における取組み

2021.3.5

ヤマハ株式会社
経営企画部サステナビリティ推進グループ
阿部裕康

「楽器」「音響機器」「部品・装置ほか」の3つの領域で、グローバルに事業を展開しています。

楽器事業



ピアノ



電子ピアノ



エレクトーン



バイオリン



ギター



クラリネット



サクソフォン



リコーダー



トランペット



マリンバ



ドラム



ヤマハ音楽教室

音響機器事業



AV機器



ルーター

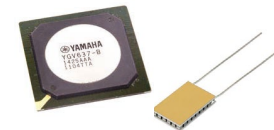


PA機器



遠隔会議用スピーカーフォン

部品・装置事業ほか



電子デバイス



FA機器



自動車用内装部品



ゴルフクラブ

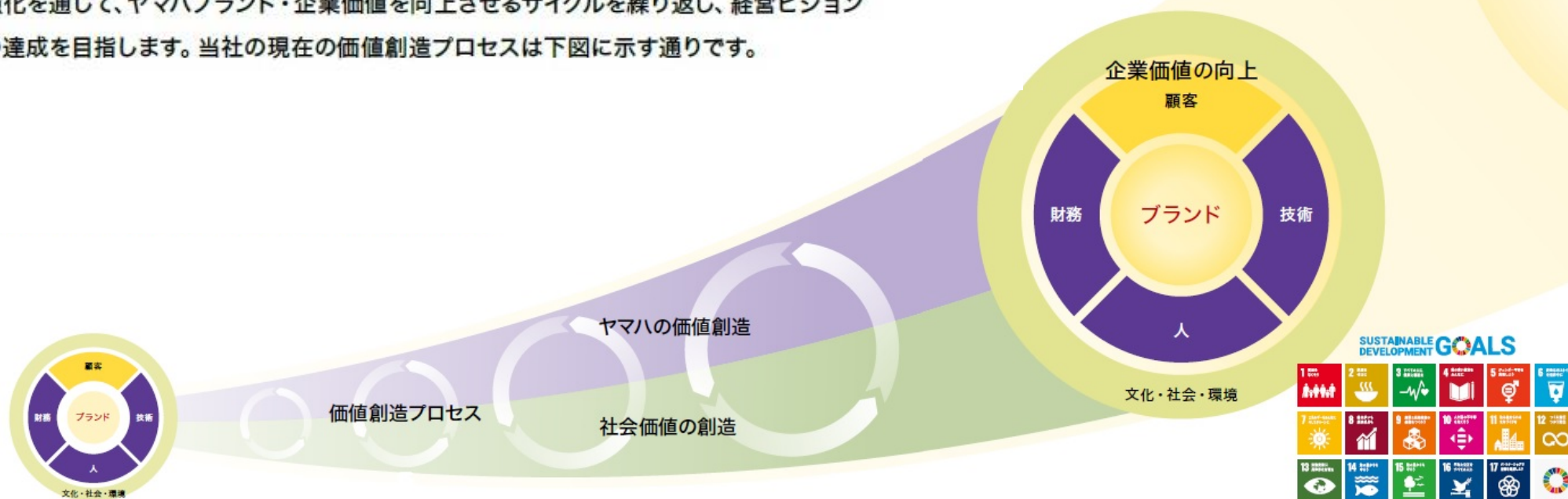
価値創造ストーリー

社会価値の創造を通じ、企業価値を高め、ビジョンを実現

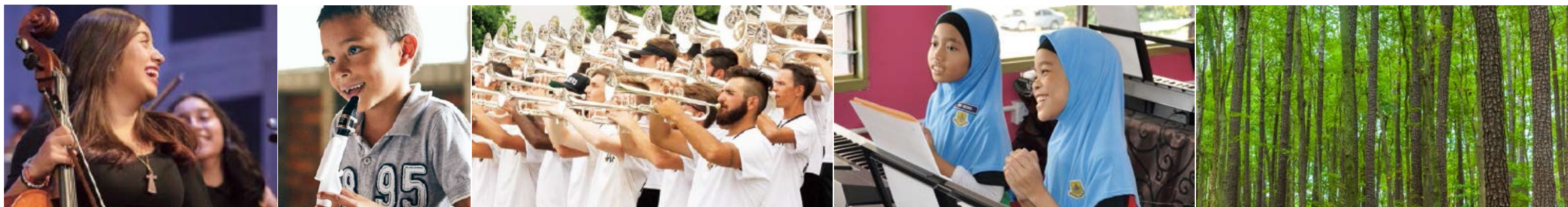
ヤマハは、事業活動を通じた“ヤマハの価値創造”と“社会価値の創造”により、各資本の強化を通じて、ヤマハブランド・企業価値を向上させるサイクルを繰り返し、経営ビジョンの達成を目指します。当社の現在の価値創造プロセスは下図に示す通りです。

経営ビジョン

「なくてはならない、
個性輝く企業」になる
ブランド力を一段高め、高収益な企業へ



ヤマハ統合報告書より



【基本戦略】

大きく、急激なスピードで変化する世の中で、

「顧客・社会との繋がりを強化し、価値創造力を高める」

【財務目標】

(IFRS基準)

収益力の強化と成長基盤の強化を両立

事業利益率：**13.8 %**

ROE：**11.5 %**

EPS：**270 円**

【非財務目標】コーポレートブランド価値*：**1.3 倍**

新興国の器楽教育普及：**100 万人**
(累計)

認証木材使用率：**50 %**

【投資と還元】

成長投資と株主還元バランス良く配分

総還元性向：**50 %**



*ヤマハ(株)とヤマハ発動機(株)の合同ブランド価値 \$1.2 billion
(Interbrand社 Best Japan Brands 2019)

基本戦略

「顧客・社会との繋がりを強化し、価値創造力を高める」

Make Waves 1.0

ヤマハの価値創造

社会価値の創造

1. 顧客ともっと繋がる



2. 新たな価値を創造する



3. 生産性を向上する



4. 事業を通じて社会に貢献する



収益力

=

顧客価値

×

生産性

中長期的に自らの価値に反映

- ステークホルダーにとっての重要性と、当社の持続的成長にとっての重要性を考慮し、外部有識者等へのヒアリングを経て決定
- SDGsのゴール、ターゲットを意識して各部門が中計に組み込み推進

ISO 26000	サステナビリティ重点課題
消費者課題（環境）	1. 社会・環境課題を見据えた製品・サービスの開発
コミュニティ参画・発展	2. 地域に根差した事業展開、社会貢献活動
環境	3. 温室効果ガス排出削減 4. 持続可能な木材調達
人権・公正な事業慣行	5. 製品における3R推進 6. 人権尊重への体系的取り組み
労働慣行	7. ダイバーシティ、人材育成



News Release

ヤマハ株式会社

2019 年 6 月 27 日

ヤマハグループが温室効果ガス削減目標で 「SBT イニシアチブ」の認定を取得、TCFD 提言への賛同も表明

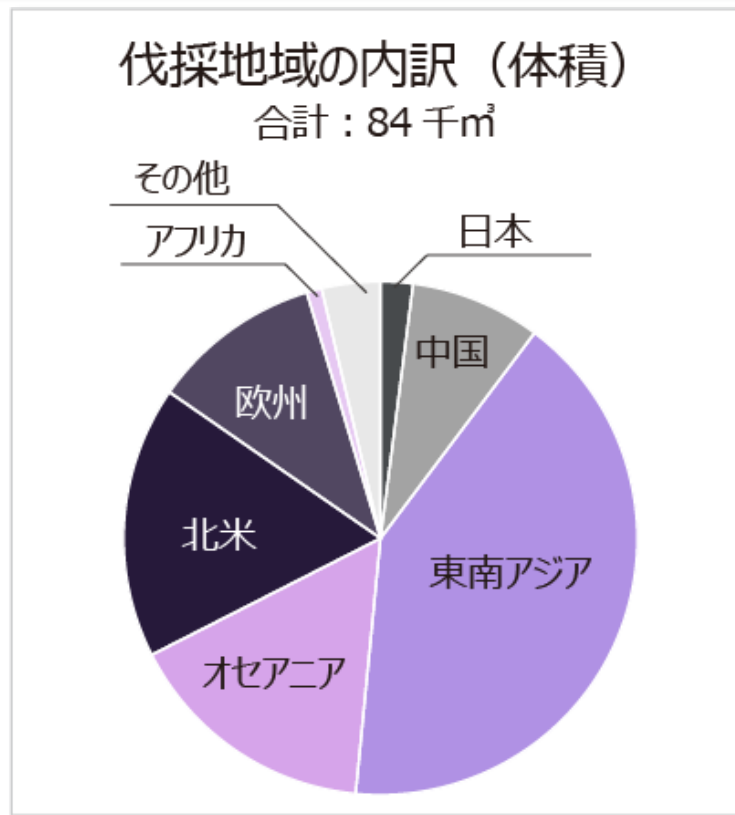
ヤマハ株式会社（本社：静岡県浜松市中区中沢町 10-1、代表執行役社長：中田卓也）は、中長期的な温室効果ガス削減目標において、国際的な環境団体である SBT イニシアチブ^{注1}より認定を取得するとともに、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)^{注2} 提言への賛同を表明しましたのでお知らせします。

■ヤマハグループの温室効果ガス削減目標 [2017 年度比]

- Scope1+2 ^{注3} : 2030 年度までに 32%削減 (2050 年度までに 83%削減)
- Scope3 ^{注4} : 2030 年度までに 30%削減



伐採地域内訳



木材調達の課題

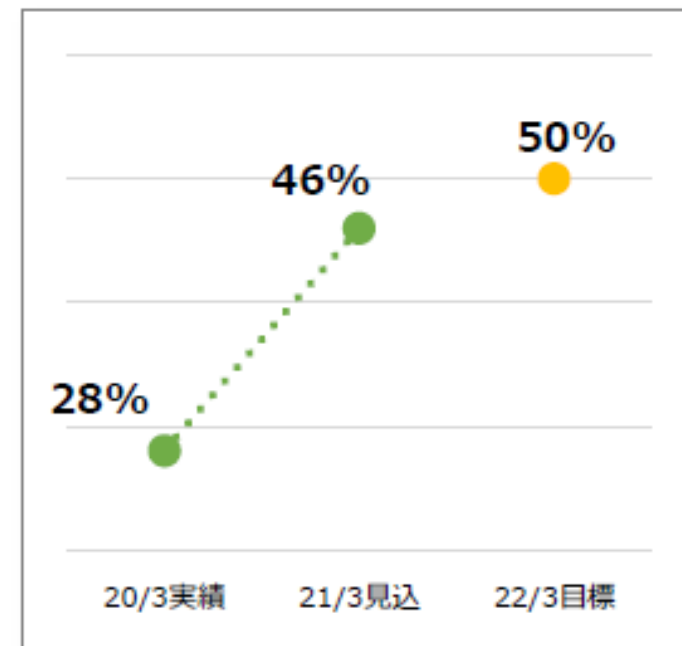
- 違法伐採・森林破壊への加担リスク
- 一部の楽器用材の希少化

※ 無垢:木質ボード=6:4
※ 2020年3月期実績

認証木材の利用拡大

- 2020年3月期末 認証木材採用率28%
- 2021年3月期末 46%まで向上見込み
- 中計目標50%に向け順調に推移

【認証木材使用率の推移】



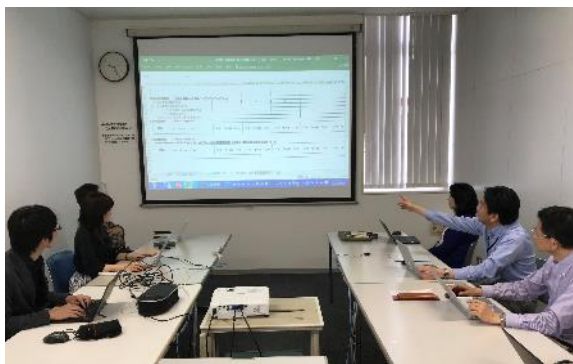
仕組みの整備

2016年からSAQ（自己点検票）による合法性確認を開始、以下の仕組みを整備して2018年度より実施

1. 合法木材基準
2. SAQフォーム(Self Assessment Questionnaire)
3. 訪問調査手順、チェックシート



訪問調査の様子



社内での合法性審査会

合法木材基準

I. 認証材

認証機関により審査されているもの

II. 合法材

- 1) 国や州による**合法証明**のあるもの
- 2) **伐採権**が確認されたもの
- 3) 森林組合などの**団体証明**のあるもの
- 4) その他の権利が明確なもの

※トランスペアレンシー・インターナショナルが公開する腐敗認識指数を参考にして**リスクの高い国を優先**して確認

低リスク確認 98.8%（2019年3月期 購入木材）

アフリカン・ブラックウッド（木管楽器材料）を中心とした持続可能な森林経営

- FSCコミュニティ森林からの調達ルートの開拓、森林への利益還元
- 楽器好適材の育成と資源保全を両立したコミュニティ林業

Phase-1

- アフリカン・ブラックウッドの現状と課題把握
- ビジネスモデルの構築・実証（FSC認証材の調達）

2019年よりPhase-2移行

Phase-2

- 良質材の育成と資源保全の両立
- 活動の現地定着と対象地域の拡大

Phase-3

- 現地産業との両立（農業）
- 森林モニタリングシステムの確立、導入



アフリカンブラックウッド



挿し木繁殖のトライアル

外部評価・受賞

「ヤマハグループ統合報告書2020」が「第23回日経
アニュアルリポートアワード」で「優秀賞」を受賞



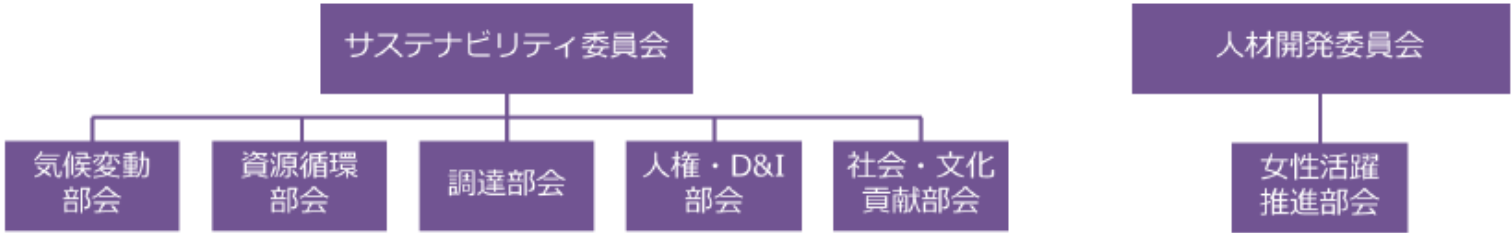
「ヤマハグループ統合報告書2020」は、
下記からご覧いただけます
<https://www.yamaha.com/ja/ir/publications/>

CDP「気候変動レポート」
で「A-」の評価を獲得



ESGへの取り組みを加速（2021年1月付 組織変更）

サステナビリティ委員会と5つの部会を新設。人材開発委員会に女性活躍推進部会を新設





サステナビリティ



社長メッセージ >



特集一覧 >



サステナビリティレポート
ダウンロード >

活動報告



組織統治 >



人権・労働慣行 >



環境 >



公正な事業慣行 >



消費者課題 >



コミュニティへの参画および
コミュニティの発展 >

各種方針・ガイドライン

ヤマハグループサステナビリティ方針 >

ヤマハ サステナビリティ

検索



